



基本理念「心のかよう医療を行い、信頼される病院」

かわせみ

R4年度
冬号
VOL.55



◆糖尿病内科のご案内

◆膝関節の再生治療を始めました



新年のご挨拶

林 道廣 (はやし みちひろ) 病院長

新年あけましておめでとうございます

平素より当院につきましては格別のご高配を賜りありがとうございます。

猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症も、ついに4年目を迎えました。当院では、2020年1月31日の疑似症受入から2022年12月6日現在、新型コロナウイルス陽性患者1639名、疑似症約256名、合計約1895名の入院治療を行ってまいりました。この間、皆様方におかれましては、当院のコロナ診療にご理解、ご協力を戴きましたことを深く感謝申し上げます。一方で、元来、当院に課せられた救急・小児・周産期医療などの通常診療も両立すべく努力してまいりましたが、不十分な点多々あったものと思っております。一層の改善を重ねてまいります所存ですので、ご容赦願えましたら幸いに存じます。

あらためまして当院は、『心のかよう医療を行い、信頼される病院』を基本理念に、患者の皆様や地域との信頼関係を築きながら、安全かつ安心と満足の得られる質の高い医療を提供することが使命であると考えています。引き続き住民の皆様様の健康回復・増進、ならびに地域医療の発展に貢献してまいりますので、来年も変わらぬご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

糖尿病・内分泌内科



柴崎 早枝子
(しばさき さえこ)
糖尿病・内分泌内科部長

当院が力を入れている糖尿病治療の3分野について

1 血糖コントロール不良2型糖尿病の集約的治療

糖尿病のみならず、全身状態・合併症や併存疾患・生活環境・ADL・QOLを加味して、お一人お一人に最適な糖尿病治療をご提案し、他科と連携して集約的治療を行います。当科では「外来インスリン導入」が標準治療です。「糖尿病チーム医療」を支える熟練のスタッフ（看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師）の指導により、インスリン注射＋血糖測定＋栄養指導を3時間で学習できます。仕事、家事、育児

や介護を理由に「入院ができない」患者様には、当院の外来インスリン導入のシステムをご活用頂きたいと思っております。ただし、やせ型で1型糖尿病が疑われる、高血糖症状（体重減少、口渇、多飲、多尿）がある、著明な高血糖に脱水、感染やケトアシドーシスを合併、悪性腫瘍などの他疾患や薬剤の影響で血糖コントロールが悪化、術前で厳格な血糖コントロールが必要、認知機能が低下し食事療法が困難、このような患者様では入院加療が原則です。

2 最新機器を用いた1型糖尿病の緻密な血糖コントロール

現在60名の1型糖尿病患者様が通院されておられます。basal-bolus療法（1日4回のインスリン頻回注射）＋間歇スキャン式24時間連続血糖測定（isCGM、FreeStyleリブレ®、Abbot社）を基本とし、積極的にインスリンポンプ療法（ミニメド™770G®、Medtronic社）を導入しております。CSIIは勿論、SAP、HCLまでstep upが可能です。入念な事前準備・カーボカウント習得・ポンプ基礎知識とデモ機

によるポンプレクチャー受講が前提条件ですが、インスリンポンプも外来導入が基本です。お若い方、中～壮年のbasal-bolus療法では血糖コントロール不良の方、妊娠出産を視野に入れておられる女性患者様は、是非、インスリンポンプ療法を選択肢の1つとしてお考え下さい。毎週水曜日午前に「インスリンポンプ専門外来」を完全予約制で実施しております。



3 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の厳格な血糖コントロール

当科には年間40～50症例のご紹介があります。妊婦特有の大きな血糖変動、ケトーシスに傾きやすい代謝状況、妊婦特有の血糖管理目標、血圧と体重の管理、インスリン製剤の適切な選択、SMBGとisCGMを駆使した厳格な血糖管理、妊娠週数に応じた細かな栄養指導、分割食の導入など可能な限り

正常耐糖能を目指して厳格に管理し、妊婦様にはその必要性をわかりやすく指導します。「妊娠糖尿病教育入院」も実施しております。近年はプレコンセプションケア（妊娠前血糖コントロール）のご用命も多く承っております。

膝関節の再生治療を始めました 自由診療

市立ひらかた病院では、12月から、膝関節痛への治療の新しい選択肢として、再生治療（PRP・APS療法）の診療を始めました。PRP・APS療法は採血した血液のうち、血小板が多く含まれる成分を抽出して関節内へ戻します。「患者様自身の持つ治癒能力」を補助し、痛みなどの症状改善を目指します。

治療に用いるPRP（多血小板血漿）は、自分自身の血液から作製するため、拒絶反応などの重篤な副作用が起きる可能性は極めて低いと考えられています。また、治療行為も採血と注射のみのため、体への負担も少なく済みます。APS療法は、PRPからさらに処理を行い、「自己タンパク質溶液（APS）」を抽出し、関節に注射する方法で、より良好な経過が期待されます。



ヒアルロン酸注射では効き目が弱い

手術はせずになんとかしたい

膝が痛くて歩くのがしんどい

安心・安全を重視したい

このような患者様がおられましたら、ぜひご相談ください。

※通常の保険診療と異なり、自由診療となります。

（施術日の前後に行う診療については、一般的な保険診療になります。）また、得られる効果には個人差があります。

※問い合わせ先：市立ひらかた病院 医事課

登録医療機関のご紹介

上田外科

枚方市田口山 2-31-15 TEL.072-856-3388
診療科 内科・一般外科・消化器科・乳腺外科



上田 さつき 先生



上田外科は、昭和56年に開業され、内科・一般外科・消化器科・乳腺外科などと幅広い診察に対応されています。小さいお子さんから高齢者まで様々な患者さんが来院され、成長や健康に長く付き合っていけるホームドクターを目指されているそうです。上田さつき先生は、様々な病院で勤務された後に、現在は名誉院長であるお父様と一緒に日々の診察にあたられています。

先生の専門は乳腺外科であり、初診時から患者さんの不安や心配事に寄り添う診療を心がけておられます。乳がんは自分で

触って早期発見できる唯一の疾患であるため、乳房を意識した生活習慣（ブレスト・アウェアネス）をつけ、疾患に対して正しい知識を持ってほしいと話されました。乳がんの罹患数は40代から増えるため、月に1回は自分自身で触診をし、少なくとも2年に1回は検診を受けて早期発見につとめてほしいと教えて下さいました。

診察の忙しい中、休日はウォーキングをされており、最近では紅葉などの景色を楽しみながら歩いているそうです。

取材をさせて頂き、先生の笑顔と親しみやすさがとても印象的でした。

上田先生、ありがとうございました。



やまざき歯科医院

枚方市南楠葉 1-54-9 TEL.072-836-8241
診療科 歯科



山崎 彰久 先生



やまざき歯科医院は、2004年9月に南楠葉で開業され、今年で19年目を迎えられました。山崎先生はこの地で、患者さん一人一人に応じた適切な治療を心がけ、多くの患者さんとの出会いと信頼関係を大切にされています。

先生は、患者さんに生活習慣改善の指導をするなど、予防に力を入れ、さらに歯を失くした場合の修復処置や審美修復にも対応しておられます。またインプラントを希望される患者さんも多いことから、多くのインプラント

治療にあたられ、患者さんにはとても喜んでもらっているそうです。

また、分かりやすい説明をするために患者さんの口の模型を作り、この模型を使って現状を知ってもらうことで、患者さんが希望している治療を納得した上ですすめているとの事でした。

趣味はスイミングやジョギングで、これまで20回以上フルマラソンにも参加されています。2023年2月の大阪マラソンにも参加予定と話してくださいました。取材を通じて、先生の優しさやひたむきな姿勢を感じる事が出来ました。

山崎先生、ありがとうございました。

